

第1回釧路市再生可能エネルギー基本戦略推進協議会 議事要旨

日 時 令和7年12月18日(木) 午前10時00分～午前11時35分
場 所 釧路市交流プラザさいわい3階大ホール及びWEB会議
担当課係 企画課企画係

1 開会

2 副市長挨拶

3 委員紹介

4 会長・副会長選任

- ・委員より事務局一任の声があり、事務局案として、会長に「石井委員」、副会長に「菅野委員」を提案
- ・委員より異議なしの声があり、事務局案のとおり決定

5 議事【◎…会長、○…委員、●…事務局】

(1) 釧路市再生可能エネルギー基本戦略について

○説明

○質疑なし

(2) 釧路市自然と太陽光発電施設の調和に関する条例の制定について

○説明

◎令和8年1月1日から具体的に案件がでてきてからだと思うが、既に調査の内容や計画書作成についての問合せなど、事業者からの申し立ては来ているか。

○この条例の施行に伴って新たに条例の内容に関する問い合わせはない。数年前から当地域は非常に注目を集めており、事業者もアンテナを張って情報収集に努めていたと思われる。しかし、今後どうなるのかは不明。

(3) 釧路市再生可能エネルギーゾーニングマップ(たたき台)について

○説明

◎単なるゾーニングだけではなく、昨年策定した戦略を推進していくためのゾーニング計画であること、基本方針として地域のためになる良い再エネを推進していこうというところで、最後のスライドにあったように調整区域のうち促進寄りのところに関しては、新規のものを進めていくこと、調整区域のうち抑制すべきものについては、卒FIT後に撤去するとか、あるいは、促進のところは残していくということもこれからやっていきたいと思いますということで、従来のゾーニングと比べて、中長期的な考え方を入れ込んでもらえたかなと思っている。

調整区域について聞きたいが、私の経験だと調整区域は事業者が調整すれば立てられると思っており、事業者が動き出すことが想定されるため、調整区域の中で計画がある場合に、こういった調整が具体的にされるのか、また、調整区域の中には、色々な調整の色があると説明があったが、調整区域の扱いについて、いずれにしろ10kw以上のものは許可が必要になると思うが、条例との関係性について詳しく教えてもらいたい。

○条例との関係性については、調整区域の中に特別保全区域が含まれる形になる。特別保全区域に該当する場合は、条例の中でも厳しい方の網にかかるため、相応に規制が可能になるものと考えられる。それ以外の調整区域については、それぞれ「調整」の程度に差があることから、調整区域をいくつかの段階に分けることも一案である。詳細は検討中であるものの、調整区域の中でも開発を控えて頂きたい箇所と、促進寄りの箇所に分けていくことも検討すべきである。

○具体的な運用に関しては、未経験の世界なので、相談しながら進めていきたい。

◎促進区域に誘導したいと考えても、調整すれば立てられるという感覚で事業者はいるので、調整区域の考え方をしっかりと持って、かなりの調整が必要となるエリアを調整区域と言っているという運用ができると良いのかなと思っ

もう一つ、今後、促進区域候補から案になって、パブリックコメントを通じて成案になる説明であったが、促進区域になり得る場所の周辺の人達に対して説明会を開くのではなく、パブリックコメントで対応していくということで良いか。

●パブリックコメントをもって広くゾーニングマップの状況を伝えたいと考えている。ゾーニングマップの策定に関しては、環境団体の方々と事前に意見交換をさせていただいており、そういった情報も今回盛り込んだ形で、ゾ

ーニングマップの中に示しているので、パブリックコメントを通して確認をしていきたい。

◎先ほどの説明を聞いて、希少種に対して丁寧なヒアリングをしていると思い非常に安心した。ぜひともアピールしてもらえればと思っている。

(4) 取組共有・意見交換

○説明

◎この事業はいつまでやられるのか。

○2つ事業があり、現在行っている国の補助事業は、令和3年度からスタートしており、今後お願いして続けていきたいと思っている。一方、事業化の部分は、2030年度が区切りの年になるかと思っている。

○釧路市は2021年度にゼロカーボンシティ宣言をされており、釧路地域水素エネルギー研究会としても市に対して、FSを実施してほしいと提言をさせてもらったことがあり、市の決断によって、協議会が実現されたことは大変嬉しく思っている。

昨年度、再エネ戦略を立案し、今年度はゾーニングを進めているが、2018年度時点で182万t排出していたCO₂を2030年度に半減させるという非常に大きな目標を持っており、次年度以降、連続的で実質的な事業の実施が不可欠であると認識している。

そして、釧路市のゼロカーボンを加速させるためには、ブースターとして、再エネの導入が不可欠であると戦略で提言されており、ポテンシャルとして太陽光が最良であることは間違いないと思う。ただ、昨今のメガソーラー問題により、エモーショナルに取り扱われるという懸念もあり、更にここ数日でメガソーラーの支援を廃止するといったニュースもあった。

今回のゾーニングと条例を合わせて、良い太陽光と悪い太陽光の違いを市民に理解いただける機会になればと思っている。

釧路市に設置されている太陽光発電は、地元企業以外が約9割ということで、端的に言えば、釧路市が植民地化されたと言えるのだろうと思う。

そういった意味でも地域裨益型エネルギー会社が地域の優良なポテンシャルである太陽光を用いて電力を生み、供給するそういうスキームの意義が非常に高いと考えている。

この取組を通じ、微力ながら釧路市のゼロカーボン実現と、自然環境の保全にも貢献したく思っている。

○今回のゾーニング案について、厳しい条件の中でも促進候補地が出てきたことは、基本戦略のしっかりとした裏付けになったと思っている。

やはり釧路にはそれだけの資源があり、今後どう動くとその資源を地域のために使えるのかが見えたことで、この地域の再エネポテンシャルをしっかりと把握、再認識できた状況である。次のステージとしては、地元の事業者がしっかりとそれを使いこなせる、もしくは運用し切れるポテンシャルや能力があるのか試されると思う、釧路は太陽光に強みがあるとはいえ、太陽光だけではなく、バイオマスや他の再エネも含めて、釧路の脱炭素に貢献したいと思っている。

太陽光に関しては、ネガティブな風が吹いているわけだが、最も風が強い釧路で成功事例が出せることによって、全体的に大きな成功事例になると思っており、このゾーニングを初めとして、今後の活動につなげていければと思っている。

CO₂クレジット創出の事業や、ブルーカーボン、EV自動車に関する取組など手探りに事業化できないか検証を重ねている。何とかこのエリアでうまく循環を起こすきっかけができないかというところで、釧路市の向いている方向へのアプローチを強く再認識したところである。

○回収したCO₂を現在は飲料用の炭酸などに使用し、工業用途では溶接用それから植物工場で使うなどCO₂を資源として利用している。

酪農から出てくるバイオメタンも事業として利用していくことを考えており、地域で出てくる資源を地域のエネルギーとして使っていくことを推進していこうと取り組んでいるので、今回、参加させていただく中で、貢献させていただきたいと思っている。

先ほどゾーニングの説明があったが、感想としては非常にロジカルにゾーニングされており、こういった色々な取組の中から、実現可能な政策や事業が生まれてくると思っている。

電気のエネルギーと熱のエネルギーと両方あるが、どちらかという熱の方で我々が貢献できることであるので、しっかりと考えていきたい。

○今回のゾーニングの関係で、電力設備がゾーニングに当たっては重要になってくるところの話があり、発電設備を連携するには、今の設備を更新していかなければならない。

再エネの導入に向けて設備の増強等を計画的に進めているところであるが、基本的に供給側のもとに設備構成がされている現状があるため、特に道東地方は再エネの急激な拡大を受けて空き容量がない状況となっている。ただ、空き容量がない中でも空き時間帯があるので、一部制御をしていただきながら、導入している状況となっている。

ただ、ずっと制御をしているわけにはいけないので、計画的に増強を進め

ている状況である。

カーボンニュートラルに向けた取組ということで、高効率機器の電化を進めており、脱炭素や防災の観点からも、積極的に電気自動車を導入しており、引き続き導入を進めていく計画でいる。

○発電量 100MWでそのうち、バイオマス燃料を3割使っているので、30MWを再生可能エネルギーとして市場に供給している。釧路市の再生可能エネルギー基本戦略に弊社の動向や考えがある程度反映されることが将来的には望ましいと思っており、その辺を理解頂き今回新たにメンバーに加えていただいたのかなと理解をしている。

こちらから道央に流す送電網に空き容量がないという部分で言えば、地産地消の考えが非常に大事になると思っている。その一つとして、データセンターの誘致を釧路市と一緒に進めている。そういう面では、今後、電力需要は右肩上がりということで、これは偏に生成AIの普及などによるデータセンターの増加が起因していると感じている。

その上で、東京大阪圏に約8割のデータセンターが集中しており、これを国では北海道と九州に分散していこうという方針を持っているので、北海道へのデータセンター誘致は非常に有効と思っている。一昨日も、北海道庁主催で、東京で北海道データセンターセミナーが開催されたが、そういう動きを機敏に捉えて、何とか釧路圏にデータセンターを誘致しながら、再生可能エネルギーの地産地消という部分に少しでも役に立ちたいと思っている。

そういう意味では、先ほどたたき台の説明の中でも、地元の企業による地産地消を目標として掲げていたので、協力しながら今後も進めていければと思っている。

○市としてはこの後、議会や市民に説明をしていくフェーズになっていくと思っている。やはり太陽光に対する意見というか、関心が非常に高くなっていて、メガソーラーに関する意見が多くなっている状況がある中で、良い再エネ、悪い再エネという考え方を分かりやすく、示していくことが大事だと思っており、しっかりそこを分かっていたら、民間の皆様も事業を進めやすいような、環境整備に努めていきたいと考えている。

○今回のゾーニングは、喫緊の課題に対応するという側面もある。太陽光のポテンシャルが高いということもあって、いわゆる地上型を中心に考えてゾーニングという形になっているが、カーボンニュートラルの達成に向けては、太陽光だけではなく、様々な再エネをどのようにこの地域で活用をしていくか、そういった視点を忘れてはならないだろうと思っている。

そういった可能性というものに対して、常にアンテナを張って皆様と情報を共有していきたいと考えている。

また委員の皆様から話があったとおり、CCSの関係、水素の関係、ブルーカーボン関係など様々ある。そういった取組を総合的に進めていくことが、重要だと思っており、引き続き皆様のご協力をいただきながら、進めていければと思っている。

○釧路港の30年、40年後の将来像を決める長期構想の中で、物流やにぎわい交流の柱の中に、環境エネルギーという柱も一つ入っており、その中では、水素、アンモニア、エタノールなどの次世代エネルギーの供給拠点形成というところも位置づけ、この他にLNGやブルーカーボンというところも入れて取組を進めている。

今後、さらには具体の事業化などということで進んでいくことになるので、再生可能エネルギーの基本戦略とも連携を取って、ゼロカーボン、カーボンニュートラル化を進めていければと考えている。

○現在の計画につきましては、私どもも様々勉強をさせていただく。11月に石炭要望に行っており、海外研修生を受け入れて、保安技術や採炭技術の移転を進めること、あわせて、CCUSの取組について予算措置をしてほしいというお願いに行き、石炭は我が国の高度経済成長を支えてきた大事なエネルギーである。悪いのはCO₂である。CO₂を削減する取組が必要であるので、ぜひCCUSについては頑張っていたきたいとコメントをいただいた。

あわせて最近の話では、CO₂を食べる生物の研究が進んでいるというような話をいただいたので、このあたりの情報もあれば、私もいろいろ情報収集していきたいと思っている。

○釧路市は火力発電という、化石燃料を使った電力供給をしている一方で、タンチョウも含めた野生生物が多くおり、湿原と市街地が隣接しているというのは、多分全国でも釧路市ぐらいなのかなと思っている。

その中で、再エネをしっかりとやりながら、経済として成り立っていく、裨益があるシステムにしていかないと、なかなか投資だけが先行しても、うまくいかないだろうと思っており、我々としても事業者と一緒にあって、成功事例を少しずつ積み上げていきたい。

当然、ゼロカーボンなので排出をしないということもあり、ブルーカーボンを含めて排出したCO₂をどう吸収するかという二つを頭に置きながら、我々も色々やっていきたいと思っており、皆様方と色々なことで連携しながら進めていければと思っているので、今後もよろしくお願ひしたい。

(5) 取りまとめ

◎最後に私から、昨年の計画ができた後、こういった協議会で進捗が管理されて、それから、地域裨益型エネルギー会社の必要性も認識され、そうした背景のもと今回のゾーニングを着々と進めているというふうに理解した。

特に釧路の事業者間の連携は、取組の第一歩としては順調なのかなと拝見させていただいた。委員の皆さんから発言もあったが、再エネ全体としては逆風が吹いている中で、だからこそ、ここで成功させると、非常に力強いお言葉も頂いたことに感謝申し上げたいなと思っている。

引き続き、釧路市のゼロカーボンに向けた取組が地域に利益という形で、それから全国の一つの良いモデルになるように取組を推進していくことに私も、貢献していきたいと思っている。

6. その他

●事務局より今後のスケジュールを報告

7. 閉会